

豊川市議会傍聴記

地方政治
クリエイト
伊藤 秀昭

豊川市議会3月定例会は2月23日に開会し、山脇実市長が2017年度の施政方針と予算案の大綱を説明した。

その中で山脇市長は、『笑顔で・明るく・元氣よく』をキャッチフレーズに、まちの未来像の実現に向けてまい進する。何事にも積極的に立ち向かい、元氣な豊川市を作り上げていく」と決意を述べた。

「とよかわ未来」を

回(15年実施)の市 成果

回(15年実施)の市 成果
清風会を代表して質問した大野良彦氏は市長就任10年目の節目を迎えていることから、今後のまちづくりについて質問した。

また、堀内氏は人口減少の中で市税などの減収が懸念され

着実な取り組みで具体的な成果

ているが、社会保障費は増加しつづけていることから、廃止(スクラップ)するものと、新たな取り組み(ビルド)のメリ

ハリ的重要性、併せて内部統制によるリスク管理を指摘した

が、納得できる問題提起だった。

10年間の着実な

さらに大野氏は用

途変更してイオン進

途変更してイオン進出を支援することと、中小企業支援との整合性を問題視したが、副市長はイオン側から具体的な構想は提示されていないとしつつ、特に市内のスーパーマーケットへの影響について注視し、対応していくとした。

今後、社会保障の中心となる民生費予算が増大する中で、将来の財政運営についての具体的な

社会保険と税の 一体改革

公明党市議団を代表して井川郁恵氏は社会保険施策の取組みについて質問した。福祉部長は、女性が働きながら安心して子育てができる環境づくりや障害者福祉施策、高齢者福祉施策、生活困窮者

支援施策などについて市の取り組みについて説明し、消費税10%への引き上げが再延期された影響を懸念しているとした。

また井川氏は来年度からの教育施策への取り組みのためのマンパワーの充実についても質問した。

助手(AET)を毎年

助手(AET)を毎年2人ずつ増員して子どもたちにネイティブの英語に触れる時間を確保していくなどと答えた。

大規模になる?

大規模になる? イオン豊川 共産党市議団を代表して佐藤郁恵氏はイオンモール進出について「イオン岡崎やイオン志都呂よりも大規模になる」との情報に関する質問をした。

財産管理官は「ス

ズキ豊川工場の敷地が14万平方メートルで岡崎店の1.3倍、志都呂店の1.5倍であり、店舗面積もそれなりのものになると思われる」と答弁した。

それを受けて佐藤氏は、商工費予算が前年度より減額していることを問題視し、進出規模の概要がつかめた段階で商業や周辺交通への影響調査を行うべきことなどを要請した。

また佐藤氏は「立地適正化計画」に基づき都市機能誘導区域が機能するためには公共交通ネットワーク次第であり、JR愛知御津駅、西小坂井駅の無人化方針がネックにならないかと質問した。

市民部長は「今年10月から導入される集中旅客サービスシステムは、すでに武豊線で導入されていることなどから、やむを得ない」と答えた。